

保護者の皆様  
関係各位

## 新型コロナウイルス感染への対応について 《第16報》 ～偏見や差別をなくす人を育てる～

校長 石川 博朗



2学期が始まって1週間が経過しました。この間、お陰様で子供たち、保護者、地域の皆様、教職員等本校関係者に感染者が出ることもなくスタートできました。皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、東京都内では、新型コロナウイルス感染症の第2波ともいえる感染拡大が依然として続いています。8月27日の東京都のモニタリング会議では、都内の新規感染者数などは「減少傾向にあるものの、高水準にとどまっている」として、警戒度を最も深刻な「感染が拡大している」に据え置きました。医療提供体制については、重症者数が横ばいで推移していることなどから、警戒度は4段階のうち3段階目の「体制強化が必要」を維持しました。

7月以降の全国的な感染者数の増加とともに、感染傾向が特定の業種や年齢層に限らず、あらゆる世代や業種に拡大し、家庭内感染が目立ち始めました。同時に、児童生徒等や教職員など学校関係者の感染事例が見られるようになってきました。同時に、とても残念ですが感染者やその家族、学校、業種に対する偏見や差別につながるような言動や行動が問題化してきました。

そこで、学校では、今一度子供たちが感染症に対する不安から陥りやすい差別や偏見等について、すべての学年・学級で考えさせ、適切な行動を取れるよう指導を進めました。特に次の点を身に付けることを2学期最初の新型コロナウイルスに関する指導のポイントとしました。

1. 感染症を予防するには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが有効であること。
2. ウイルスから、自分自身を守るため、そして、大切な人を守るため、基本的な感染症対策や、「三密を避ける」等の予防策の徹底が必要であること。
3. 誤った情報や認識、不確かな情報に惑わされることなく、正確な情報や科学的根拠に基づいた行動をとることができるようになること。
4. **感染者、濃厚接触者等とその家族に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないこと。感染を責める雰囲気**が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、**地域での感染につながり得ること。**
5. ウイルスに感染しても症状が出ない場合があり、自分が知らないうちに感染を広めることもあることから、重症化するリスクが高い高齢者や基礎疾患がある方に接するときは注意が必要であること。
6. 感染の拡大を予防したり治療したりする医療従事者や社会活動を支えている人たちへの敬意や感謝を積極的に伝えていくこと。

8月25日、萩生田光一文部科学大臣から、子供たちや保護者・地域の皆様に対して緊急メッセージが出されました。中面にてご紹介いたします。



8月27日の全校集会(放送)で、私から子供たちに次のような話をしました。  
「私はいつもにこにこしています。でも、本当にたまにですが、本気で叱ることがあります。それは、『自分の力ではどうしようもしようがないこと』について、周りの人がからかったり、馬鹿にしたりした時です。そのときは、とても悲しく思い何とか助けたいと思います。だから、からかったり馬鹿にしたりした人を、本気で叱ります。『自分の力ではどうしようもしようがないこと』とは、例えば自分の名前や体形、障害、家族、貧富…などのことです。不慮の事故や急病などもそうです。今、世界中で新型コロナウイルス感染症が流行しています。自分が気を付けていても、多くの人が感染し、濃厚接触者になっています。そういう人たちに、あなたはどのような言葉をかけますか？どのように思いを寄せますか。考えてみてください。」

ご家庭でも、この機会に改めて偏見や差別について子供たちと話をしてみてください。きっと子供たちの素直な思いや考えに触れることができることでしょ。